

AIを広めたい。でも、周りが使ってくれない。

一度の「使えない」で、
次を試す行動まで止まっていた。

試して失望し、探さなくなった。

「Copilot Chatで営業リサーチをしたが、内容が使えない。今は使っていない」という声がほとんどでした。

M365 Copilotに別の調査機能があっても、一度の失敗で探す行動まで止まり、選択肢に入りませんでした。

営業チームも誘った勉強会で「リサーチツール」を知っていた

0%

別の機能は、同じM365 Copilotにあった。

Chatと調査専用機能は、別の入口。

Copilot Chatで質問
根拠URLまで架空。もっともらしくても裏付け不能で、業務利用不可。

リサーチツールを選ぶ
Deep Researchに相当。一次情報のURLを引用した、仕事に使えるレポートを獲得可能。

機能があっても、選択肢に入らなければ使われない。

従来のAI

Agentic AI

全部を一度に渡し、コンテキストがあふれる。

仕事を分解し、必要な情報だけを渡す。

「前のAIと何が違う？」には、二つに分けて答える。

1 | 一度に積むか、仕事を分けるか
資料・条件・過去の回答を一度に渡すと、コンテキストがあふれ、前提が埋もれる。仕事を計画 → 調査 → 作成・確認に分け、各段階に必要な情報だけを渡す。

2 | 誰が段取りを組むか
Copilot Studio
人が業務手順とファイルの受け渡しを設計し、変更時も直す。
Copilot Cowork
AIが目的から仕事を分解し、必要な情報・道具を選ぶ。

完成品より、その手前を一緒に作る。

1 | その人の仕事で、一緒に試す
何を試し、どこで失望したかを聞く。提案資料なら、論点整理 → 根拠の補強 → 相手の立場で構成修正まで、途中の判断を一緒に確かめる。

2 | うまくいった進め方を「スキル」にする
スキル＝AIが繰り返し使う、仕事の進め方
直した理由も残し、次のAI実行や人の教育に使い、実践から更新する。